

主催:厚生労働省九州厚生局 地域共生社会の構築にむけた九州·沖縄研究大会 ~地域包括ケアシステムについて~

第1部

上質な生活都市: 熊本市中央区の先進地化を目指して

黒木邦弘

熊本学園大学·社会福祉学部 2019/03/09









めざすまちの姿:上質な生活都市

◇熊本市の魅力のひとつは、「活発な地域コミュニティ」

・・・町内自治会加入率の高さ、活発な市民公益活動→高齢化による後継者不足、各団体間の連携不足などの問題が顕在化

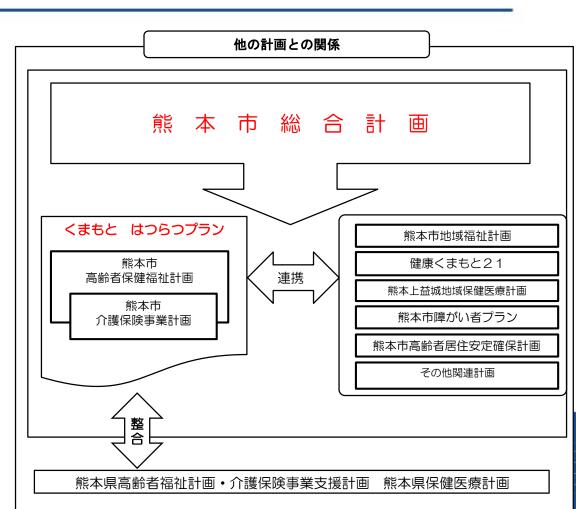
◇まちづくりの原点:「地域」、そこに暮らす「市民」

- ・市民は、今以上に地域に目を向け、自らが主体となって、地域の中でつながり、互いに支え合い、楽しみながら地域が有する資源や特色をいか した自主自立のまちづくりに取り組みます。
- ・そして、行政は、積極的に、市民の中に飛び込んで、地域の課題や市民の意見、要望などを的確に把握し、市民とともに解決を図っていきます。

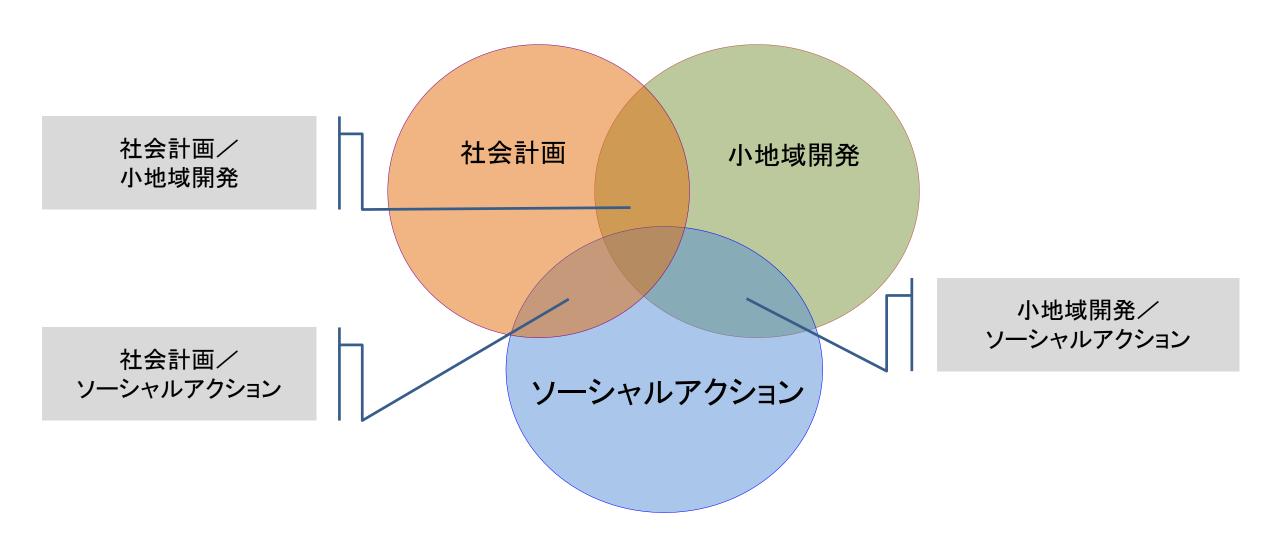
◇めざすまちの姿

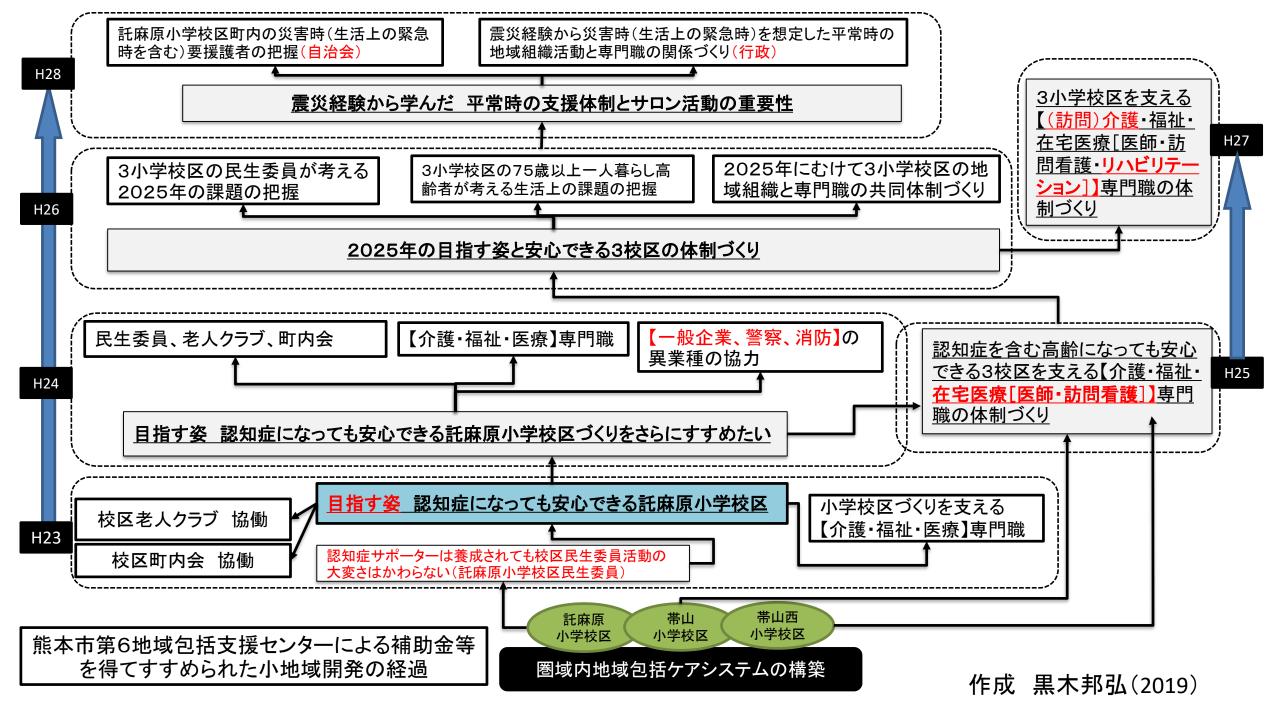
- ・豊かな自然と歴史・文化に恵まれ、あたたかいふれあいに満ちた地域の中で、お互いに支え合いながら心豊かで幸せな暮らしが営まれているまち。そして、市民一人ひとりが、自分たちが暮らすまちに誇りを持ち、夢や希望を抱いて、いきいきと多様な生活を楽しんでいるまち。
- ・ そのような、市民が住み続けたい、だれもが住んでみたくなる、訪れたく なるまち、「上質な生活都市」を、私たちは目指します。

(熊本市第7次総合計画より)



(参考)個を支える地域の見方・捉え方





市内27の地域包括支援センターに生活支援コーディネイターを配置

第6期(平成26年)熊本市高齢者保健福祉計画·介護保 険事業計画

〇熊本市においては、高齢者の方たちが住みなれた地域で最期まで日常生活を営むことができるよう、27の日常生活圏域を設定し、この圏域内で様々なサービスが利用できる基盤整備や施策の展開を図ることにより、地域包括ケアシステムを構築することを目指す。

※熊本市内27の日常生活圏域に地域包括支援センターを設置し、小学校区を単位に地域の特性や課題等校区の状況を把握。2015年10月から地域包括支援センターごとに「生活支援コーディネイター」を配置し、地域資源の把握や資源開発等の取り組みとの連携を図る。

〇また、行政内部における連携も重要であり、本庁内の関係部局はもとより、区役所など高齢者施策に関連する部署同士の密接な連携のもと、取り組みを進める。

区	圏域	高齢者 人口(人)	管轄圏域(小学校区)										
	中央1	7,105	壺川、城東、慶徳、一新、五福										
4	中央2	6,836	向山、本荘、春竹										
中中	中央3	5,045	碩台、黒髪										
央 区	中央4	6,240	白川、大江、白山										
	中央5	8,172	出水、砂取、出水南										
	中央6	9,153	託麻原、帯山、帯山西										
	東1	9,871	月出、尾ノ上、東町、健軍東、山ノ内										
由	東2	6,786	西原、託麻西										
東区	東3	10,527	託麻東、託麻北、託麻南、長嶺										
	東4	8,163	画図、健軍、泉ヶ丘										
	東5	7,456	秋津、若葉、桜木、桜木東										
	西1	4,593	高橋、池上、城山										
	西2	10,699	城西、花園、池田										
西区	西3	5,991	古町、春日、白坪										
	西4	2,426	芳野、河内										
	西5	3,510											
	南1	2,613	富合										
	南2	6,667	御幸、田迎、田迎南、田迎西										
南	南3	10,515	日吉、日吉東、川尻、カ合、カ合西、城南										
区	南4	3,330	飽田東、飽田南、飽田西										
	南5	3,124	中緑、銭塘、奥古閑、川口										
	南6	5,991											
	北1	9,130	植木、山本、田原、菱形、桜井、山東、吉松、田底										
北	北2	6,745	川上、西里、北部東										
区	北3	7,532	清水、高平台										
	北4	4,818											
	北5	10,719	楠、楡木、龍田、武蔵、弓削、龍田西										

発災後、3日間を支える平時のサロン活動 ~「災害時要援護者の平常時の緊急時を支える」~

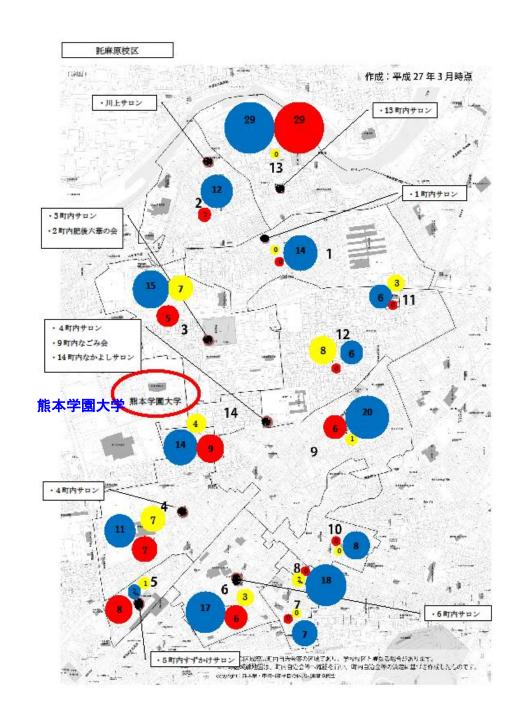


地域×専門職×未来会議



平成28年熊本地震の経験からみえてきた 潜在的な災害時要援護者 ~災害時要援護者登録者と民生委員が考 える災害時要援護者の乖離を可視化~

- ●・・・町内単位で実施される高齢者サロン参加者の うち、民生委員が考える災害時要援護者
- ●・・・町内単位で実施される高齢者サロン参加者以外の 民生委員が考える災害時要援護者
- ・・・町内単位の高齢者以外(障がい者など)の 民生委員が考える災害時要援護者
- ※円の大きさは人数の多さを示している。



町内単位で 住民、関係機関、行政が、 発災時に備えて平時の協働の必要性を検討

鼠客地は一つからからのからのは、



災害時に強い地域包括ケアシステムー平時の取り組みをサロンを起点に推進し





熊本市中央区地域包括ケアシステム推進方針

- ・期間 2025年まで
- ・推進方針 自宅等住みなれた場所で<mark>最期</mark>まで暮らすという選択ができ、それを支える<mark>総合相談・活動拠点づくり</mark> に区民全員参加で取り組みます。

〈中央区の基本目標〉

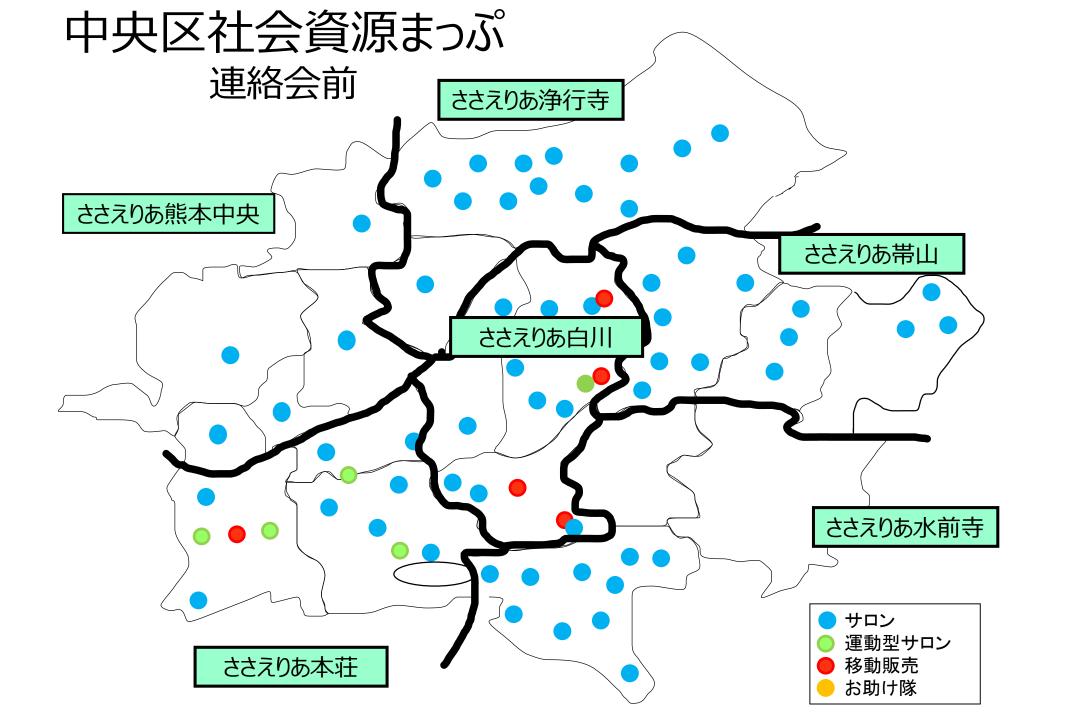
- 1 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう!
- 2 これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう!
- 3 当事者の気持ちに添えるよう多職種で力を合わせよう!
- 4 いざという時もみんなで支え合えるよう、日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう!

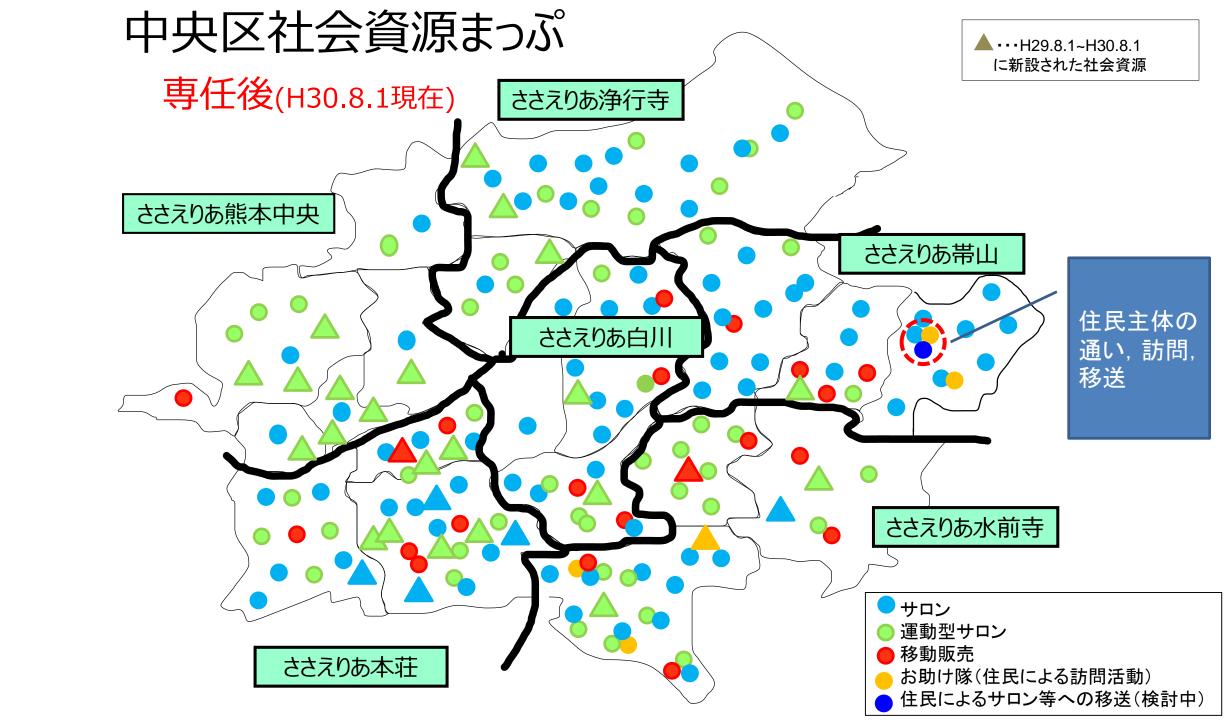




基本目標4 いざという時もみんなで支え合えるよう、日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう!

- (1) 老いも若きも、元気な人も、支援が必要な人も、共につながって支え合う地域をつくる
 - ①身近な地域で気軽に相談できる体制づくり
 - ②いざという時も助け合える見守りの仕組みづくり
 - ③生活を支えるちょっとしたお手伝いの仕組みづくり
 - ④各種サロン等集いの場の拡充と専門職との連携による住民主体の活動支援
- (2)認知症高齢者を正しく理解し対応できる地域をつくる
- ①認知症について全世代で学習する機会の充実
- ②いざという時に適切に対応できる仕組みづくり
- (3)災害に負けない「おたがいさま」で支え合う地域をつくる
 - ①住民一人ひとりが防災に関心を持つような取り組みの実施
 - ②なんらかの手助けが必要な人(災害時要援護者)を支援する共助の仕組みづくり
- (4)声をかけ合う近所づきあいの輪を拡げる
- ①全世代で集える場への積極的参加
- ②戸建てでも、集合住宅でも、日頃から仲良く声をかけ合える関係づくり





			開催	頻』	隻	時	間				;	場所	Ż	支え手									食	食事 移送 会					活動財源											
		サロン	週1 1回回 /月	1回 / 2ヵ 月	不定期	午前	午後	ゴセン	公民館	憩いの家	民 · 美 · 美 · 克	団地集会所	更生保護施設	高齢者専賃貸住宅	空 レ スト ラン	自宅	不同時に	艮訂分	自老人会会	婦人会	民生児童委員	福祉推進委員	地域住民	公民館員	医療機関	高齢者専賃貸住宅	介護保険施設	あり	なし	あり	なし	あり	なし	自治会 から支 援	民児 協か ら支 援	市社 協か ら支 援	廃品回収	担い手 が稼バ (バ ザーな ど)	担い手・ 参加者 の持ち寄 り	会費のみ
	1	0	0			0			0							(0	(5		0	0	0						0		0		0	0						
	2	0	0			0										0	() C)	0	0	0				0	0		0			0			0		0	0	
	3	0	0				0		0								O	() C)	0	0	0				0		0		0		0	0					0	
	4	0	0			0		0		0 0)					(0		$\supset \mid C$)	0	0	0					0			0	0		0					0	
	5	0	0				0			0						(0		$\supset \mid C$)	0	0	0						0		0		0	0					0	
託	6	0			0	0				0						(0		$\supset \mid C$)	0	0							0		0		0	0					0	
麻	7																																							
託麻原校区	8																																							
校	9	0			0	0		0								(0				0	0	0						0		0		0	0					0	
区	10																																							
	11																																							
	12	0	0				0		0			O				(o	(O		0		0				0							0					0	
	13	0	0			0							0			(0	() C)	0	0			0				0		0		0	0						
	14	0		0				0								(0	() C)	0	0							0		0		0	0					0	
	6	0	0				0							0		(O		С		0					0		0				0								0
	1	0	0			0				0						(0				0	0	0						0		0		0	0						
	2	0				0									0	(0) C	0	0		0		0				0	0			0	0						
市	3	0	0			0		0								(0	() C	0	0		0		0				0		0	0		0						
帯山校区	4	0		0		0		0				О					0) C		0		0						0		0		0	0						
区	5	0	0			0						О				(0) C)	0	0	0						0		0		0	0						
	6	0	0			0			0								() (5		0							0			0		0	0						
	7	0	0			0				0						(o			0	0							0			0		0				0	0	0	
帯	1.5		<u> </u>			0		0								(0				0								0		0		0	0						
山	2.3.4	0				0			0							(O				0								0		0		0	0						
西	2.3.	0	0			0			0							(O				0								0		0		0		0					
帯山西校区	3 2.4	0 0	0			0			0							(0				0			0					0		0		0	0						
区	2.4	0	0			0			0							(0) C)	0								0		0		0	0						
		100																																						

福祉実践の魅力発信: ~社会福祉法人経営者と教育機関の協働の一例~

オープンケアエリアくまもと

熊本市内8法人有志と熊本学園大学の 共催で、福祉の魅力発信のイベント実施。 (2018.7)と(2019.2)今後は高大連携事業を模索。



オープンケアエリアふくおか

 福岡市内・近郊4法人有志と熊本学園大学、 筑紫女学園大学、西南学院大学、中村学園 大学の共催で、福祉の魅力発信のイベント 実施。(2018.12)



